

## 立命館大学 オンラインシラバス / Ritsumeikan University Online Syllabus

[▲ 授業検索へ戻る / Return to Course Search ▲](#)[▲ 戻る / Back ▲](#)この授業のmanaba+Rへ / [Go to manaba+R for this course](#) シラバス印刷用画面 / [Syllabus printable page](#)

| 科目名・クラス<br>Course title / Class | 開講期間<br>Term | 曜日・時限(*1)<br>Day of the week, Period | 単位数<br>Credit | 担当者名<br>Instructor |
|---------------------------------|--------------|--------------------------------------|---------------|--------------------|
| 企業と雇用システム (E)                   | 後期           | 後期 金 3(5-6) 時限                       | 2             | 高田 好章              |
| Corporations and Employment (E) | Fall         | Fall FRI 3(5-6)Period                |               | TAKADA YOSHIAKI    |

\*1:時限は「文社系(理系)」で表記しています。

\*1:Period number outside the brackets is that for arts and social science students and within the brackets is that for science students.

## 授業の概要と方法 / Course Outline and Method

企業は人で動いています。企業にどんなに素晴らしい設備があったとしても、それを動かす人がいなければ、企業は活動できません。企業は人を雇い入れてはじめて成り立っているのです。大学生生活を終えれば、ほとんどの学生諸君はいずれかの企業に雇われて働くこととなります。その時、どのような職業生活を送るのか、さまざまな面から企業と雇用の問題を共に考えましょう。それはより良き職業生活を送るために必要な知識です。

講義は雇用に関する多岐にわたるテーマを取り扱います。特に、日本的雇用慣行・非正規化・働きすぎ・性別分業の問題が重要なテーマであると考えています。また、講義では様々な文献や資料を用い、具体的な事例などを随時紹介するとともに、時には関連するビデオを取り上げて考えていきます。

## 受講生の到達目標 / Student Attainment Objectives

※原則として、変更されることはありません。

※In principle, the information entered will not be changed once submitted.

受講生が企業と労働に関する基本的な知見を持つとともに、雇用に関して現在生じている様々な問題に対する経済学の専門的知識を得ること、また、将来企業に雇用され働く立場になった時に、経済学を習得した者として当然持つべき見識を備えること、自立してそれらの問題に対処できることを目標とします。

## 事前に履修しておくことが望まれる科目 / Recommended Preparatory Course

特にありません

## 授業スケジュール / Course Schedule

※履修している学生に対して事前に説明があった上で、変更される場合があります。

※Changes may be made after prior notification to students taking the course.

| 授業回数<br>Lecture | テーマ / Theme<br>キーワード・文献・補足事項等/Keyword, References and Supplementary Information                               |
|-----------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1               | <p>テーマ: はじめに、講義内容の概要</p> <p>講座担当者の自己紹介とこれからの講義内容の説明をします。企業とは何か、雇用とは何か、社会と企業・企業と人はどのようにつながっているのか、はじめに考えます。</p> |
| 2               | <p>資本主義への発展と雇用制度</p> <p>雇用の歴史を考えます。資本主義以前はどのように働いていたのか、産業革命以後、資本主義</p>                                        |

|    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
|----|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|    | の発展とともに、働き方がどのように変わってきたのか、取り扱います。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| 3  | <p>日本的雇用慣行と企業中心社会</p> <p>日本的雇用慣行について考えます。日本型企業社会が成り立つとともに、どのように日本的雇用慣行ができ、どのように企業中心社会が成立してきたのかを考えます。また、中小企業における労働・雇用、外国における雇用制度も取り扱います。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| 4  | <p>雇用の多様化と正規・非正規雇用</p> <p>正規雇用と非正規雇用について考えます。雇用の多様化が叫ばれている現在、正社員や契約社員、パート・アルバイト、さらに派遣労働者、様々な形態で労働者が働いています。雇用の流動化・不安定就業といわれる中、産業構造の変化とグローバル化がどのように働く人の雇用に変化をもたらしているのか、取り上げます。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| 5  | <p>人材派遣制度と派遣労働者</p> <p>非正規雇用の中でも最も不安定就業といわれるのが派遣労働者です。雇用の規制緩和が行われる中で、人材派遣がどのような背景で合法化されたのか、それは雇用と人事管理にどのような影響をもたらしたのかを考えます。また、人材派遣制度とはどのようなものか、派遣労働者の働く現場や待遇、派遣切り、人材派遣会社の実態、構内業務請負制と人材派遣の関係などを取り上げます。</p>                                                                                                                                                                                                                                                   |
| 6  | <p>賃金制度と仕事の評価</p> <p>雇われて働くということの一番の目的は、労働の対価としての賃金を得ることであるともいえます。賃金はどのように決まるのか、どのように払われるのか、その場合の仕事の評価はどのようなことになるのかを考えます。また職種等級による賃金査定と様々な手当・残業手当、さらに最低賃金制度なども取り上げます。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| 7  | <p>労働時間と働きすぎについて考える</p> <p>企業に雇用されて働くということは、労働者が自らの生活時間の一部を、企業のために働く時間として売り渡すということを意味しています。売り渡した時間は食事や短い休憩以外にもっぱら企業が拘束します。それ以外の時間は労働者自らが決める自由な時間として、家事をおこなったり、趣味に当てたり、明日の労働のための休息・睡眠にあてます。しかしながら、今の日本の多くの労働者はそのような自由な時間が限られていて、長時間労働の元に置かれていることは周知の事実です。サービス残業・ブラック企業・ブラックバイトという言葉の流布はそのことを表しています。もっとも悲惨なことは過労死・過労自殺です。なぜ長時間労働になるのか、その実態を知るとともに、どうすれば自由な時間を取り戻すことができるのかを考えます。</p>                                                                           |
| 8  | <p>就職から退職まで</p> <p>企業に雇用されて働き、やがては退職する、という流れの中で、労働者は日々仕事をしています。その長い時間の流れの最初が求職であり、採用されると就業規則に則って、与えられた職場と課せられた仕事をこなすこととなります。やがて職務を全うするようになり幸運にも昇進の機会が与えられると、部下ができ上司と呼ばれるようになります。さらに昇進すれば役員という地位が与えられるかもしれません。しかしいずれは年齢を重ねることによって定年を迎え、退職することになります。また、途中で自ら進んで退職を選択することによって、新たな職場や起業をして働くことがあるかもしれません。何らかの不都合で降格や免職・解雇される場合もあります。そのような職場生活にかかわる様々な事項を考えます。特に学生諸君の多くは新卒採用という場面を控えています。講座担当者はこれまで採用や退職等の場面を企業の立場から携わってきました。そのような様々な場面とその経験を講義の中で話すこともあります。</p> |
| 9  | <p>キャリアを考える</p> <p>企業に雇われて働くということは、自ら持つ能力・技術を買われて、その期待にこたえるように成果を出すことでもあります。これまで持っている能力や技術だけでなく、仕事をする中で蓄えた経験や技能は、仕事をするうえで最も大切な能力です。科学技術の発展によって仕事のやり方や内容も次々と変わっていきます。そのような技術進歩の中でどのように働き方が変わってきて、変化していくのかを考えます。</p>                                                                                                                                                                                                                                          |
| 10 | <p>性別分業：女性労働と外国人労働等について</p> <p>性別分業はこれまでの日本の社会の中で根強く残っている慣習です。特に女性が雇われて働くことが多かった現代では、女性労働の問題はとても重要な事項です。男女雇用均等と言われながらも、賃金や待遇・昇進で大きな差別と壁があることは確かです。女性労働の問題は女性</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                            |

|    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|    | <p>のみの問題ではなく、男性の働き方の問題でもあるのです。また、グローバル化といわれる中で<br/>の外国人労働者の問題や高齢者雇用・障害者雇用の問題も考えます。</p>                                                                                                                                                                                                                                            |
| 11 | <p>労働者を守る制度について</p> <p>雇う企業と雇われる労働者は雇用契約上では対等な立場にいます。しかしながら、実際には企業<br/>の側が有利な立場にいます。そのためこれまでの歴史の中で様々な労働者を守る制度が築<br/>かれてきました。それらは労働者が団結して労働組合を作ることであり、労働安全衛生制度であ<br/>り、雇用保険や労災保険・健康保険であり、また退職後の生活のための年金制度であります。そ<br/>れらを知ることは働く人々にとって、とても重要な知識であり、あらかじめ知ることによって自らを<br/>助ける糧になります。そのような問題を考えます。</p>                                 |
| 12 | <p>さまざまな働き方・新たな働き方</p> <p>企業に雇われて働くことは、一般的には民間企業・私企業で働くことを指しています。しかし、企<br/>業にはそれ以外に公企業があり、労働者はそこでは公務労働者として働きます。またNPOやN<br/>GOで働くこともあります。このように様々な企業体での働き方を考えます。また、これまでの日<br/>本では高度経済成長の中で、都市において企業が成長してきました。そこでは働く人々は都市<br/>に集中してきましたが、その一方で地方では雇用の機会が失われてきました。近年仕事おこしと<br/>して地方における働き方にあらたな芽が芽生えつつあります。そのような新たな働き方を考えま<br/>す。</p> |
| 13 | <p>雇用の流動化と労働規制緩和政策</p> <p>多くの先進諸国はこれまでの労働規制を緩和しようとする政策が近年とられてきています。日本<br/>も例外ではなく、労働者の働き方を守る様々な政策や規制を「岩盤規制」と呼んで掘り崩そうと<br/>しています。それはどこから来たのか、またどのようにしようとしているのか考えます。そして、より<br/>よく働くためには何が必要なのかも考えます。</p>                                                                                                                            |
| 14 | <p>企業と雇用システム・まとめ1：日本的雇用慣行と非正規化</p> <p>これまでの講義の内容を2回に渡ってもう一度概括します。まとめ1では日本的雇用慣行と非正<br/>規化の問題を取り上げます。</p>                                                                                                                                                                                                                           |
| 15 | <p>企業と雇用システム・まとめ2：働きすぎと性別分業</p> <p>これまでの講義の内容を2回に渡ってもう一度概括します。まとめ2では働きすぎと性別分業の<br/>問題を取り上げます。</p>                                                                                                                                                                                                                                 |

### 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

「参考書」としてここに掲載している文献に興味あるものから読んでください。特に、普段から毎日の新聞やテレビで、企業活  
動や働き方に関するニュースを読み・観るとともに、テレビ等の報道番組や雑誌の特集記事などにも興味を持ち、経済学を志  
す者として専門書にも目を通して、日本や世界で今何が起きているのか、それらがどのようなことから生じているのかを考  
え、それらの問題に対する感性を磨いてください。

### 成績評価方法 / Grade Evaluation Method

※原則として、変更されることはありません。

※In principle, the information entered will not be changed once submitted.

| 種別<br>Kind                                                                                                           | 割合<br>Percentage | 評価基準等<br>Grading Criteria etc.            |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------|-------------------------------------------|
| 定期試験(筆記)<br><b>End of Semester Examination<br/>(Written)</b>                                                         | 80 %             | 筆記試験を課し、講義で行った内容について得た<br>知識と自らの考え方を求めます。 |
| レポート試験<br>(統一締切日を締切とするレポート)<br><b>Report Examination<br/>(A report to be submitted by<br/>the standard deadline)</b> | 0 %              |                                           |
| 上記以外の試験・レポート、平常点評<br>価                                                                                               | 20 %             | 講義中にアンケート・レポートなどの課題を求めま<br>す。             |

(日常的な授業における取組状況の評価)  
**Exams and/or Reports other than those stated above, and Continuous Assessment (Evaluation of Everyday Performance in Class)**

#### 備考 / Note

筆記の定期試験を評価の基本としますが、講義の中で指示する課題等で評価を加味します。

#### 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

働き方の問題は、学生諸君にとってはこれからの長い人生で常にかかわってくる問題です。またすでにアルバイトや学業前に働いたことがある学生もおられるでしょう。そのような中で考えたこと・思ったことなど元に、講義担当者への積極的な問いかけや、疑問と思ったことをいつでも遠慮なく言ってください。できる限り答えますし、また共に考えましょう。

#### 教科書 / Textbooks

※「教科書」の書名をクリックすると、立命館蔵書検索システム(RUNNERS)の画面が表示され、該当図書の書誌情報や所蔵が確認できます。検索方法等ご不明な点がございましたら、図書館にお尋ねください。

※If you click the title of a textbook in the syllabus, the "Runners" (Ritsumeikan University Library search database) screen will display bibliographic details and stock availability. For further inquiries on issues such as how to search a book, please ask a librarian.

[library@st.ritsumei.ac.jp](mailto:library@st.ritsumei.ac.jp)

#### 備考 / Note

教科書は特に指定しません。毎回講義内容のプリントを配布し、参考文献を示します。

#### 参考書 / Reference Books

※「参考書」の書名をクリックすると、立命館蔵書検索システム(RUNNERS)の画面が表示され、該当図書の書誌情報や所蔵が確認できます。検索方法等ご不明な点がございましたら、図書館にお尋ねください。

※If you click the title of a reference book in the syllabus, the "Runners" (Ritsumeikan University Library search database) screen will display bibliographic details and stock availability. For further inquiries on issues such as how to search a book, please ask a librarian.

[library@st.ritsumei.ac.jp](mailto:library@st.ritsumei.ac.jp)

| 書名<br>Title             | 著者<br>Author | 出版社<br>Publisher | ISBNコード<br>ISBN Code | 備考<br>Comment                            |
|-------------------------|--------------|------------------|----------------------|------------------------------------------|
| 雇用身分社会                  | 森岡孝二         | 岩波新書             | 978-4-00-431568-1    |                                          |
| 貧困社会ニッポンの断層             | 森岡孝二編        | 桜井書店             | 978-4-905261-07-0    | 特に、1章:企業社会、2章:派遣、3章:パート、5章:中小企業、8章:労働CSR |
| 働くということーグローバル化と労働の新しい意味 | ロナルド・ドーア     | 中公新書             | 4-12-101793-5        |                                          |
| 新しい労働社会ー雇用システムの再構築へ     | 濱口桂一郎        | 岩波新書             | 978-4-00-431194-2    |                                          |
| 就職とは何かーくまともな働き方)の条件     | 森岡孝二         | 岩波新書             | 978-4-00-431338-0    |                                          |

#### 備考 / Note

その他の参考書として、竹信三恵子『ルポ雇用劣化不況』岩波新書、伍賀一道『「非正規大国」日本の雇用と労働』新日本出版社、今野晴貴『ブラック企業ー日本を食いつぶす妖怪』文春新書、森岡孝二編『格差社会の構造ーグローバル資本主義の断層』桜井書店(特に、1章:働きすぎ、2章:派遣請負、3章:アメリカ労働市場、4章:ディーセントワーク、)、森岡

孝二編著『現代日本の企業と社会—人権ルールの確立をめざして』法律文化社(特に、2章:終身雇用・非正規、5章:サービス残業、7章:女性労働、8章:外国人労働者)など。  
適時、講義の中で関連する文献等を紹介します。

#### 参考になる WWW ページ / Web Pages for Reference

- ・厚生労働省のホームページ
- ・様々な働き方や労働に関するホームページ
- ・講義の中で、関連するホームページを紹介します

#### 授業内外における学生・教員間のコミュニケーションの方法(教員との連絡方法含む) / How to Communicate with the Instructor In and Out of Class(Including Instructor Contact Information)

##### その他 / Other

「その他」が表示されている場合は、連絡方法の詳細があります。受講登録をしている学生のみ、この授業のmanaba+Rの「授業計画表」ページから詳細が閲覧できます。

If "Other" is displayed in "How to Communicate with the Instructor", students registered to take this course can view details on the instructor's contact information in Course Schedule on the manaba +R website.

#### 備考 / Other Comments

講義中に、感想・意見・質問に関するアンケートをとることがあります。また、時には講義の中で簡単なレポートの課題を出すことがあります。それらはすべて講義の中で指示します。

講義は授業スケジュール通りに行う予定です。しかし、講義の進み具合や受講生の理解度によって適宜変更することがあります。その場合は講義の中であらかじめ指示します。

[▲ 授業検索へ戻る / Return to Course Search ▲](#)

[▲ 戻る / Back ▲](#)

[シラバス印刷用画面 / Syllabus printable page](#)